

2024年度 特別研究期間制度 適用者

所属	氏名	職位	種別	期間	主たる研究国	主たる研究先	研究題目	研究報告
文学部	高田 祐彦	教授	長期(1年)	2024.4.1 ～ 2025.3.31	日本	本学	源氏物語の長編構造の研究—時間と空間の関わりを中心に	源氏物語がいかなる長編物語であるかという問題を、作品の主題、構造、表現、文学史的観点、歴史との関わりなど、総合的な視野から解明することを試みた。主として、長編を支える時間構造と空間構造との関連を明らかにすることに力を注ぎ、特に、六条御息所の邸に関わる表現や展開を中心に、新たな研究成果と発展的な展望を得た。
文学部	那須 輝彦	教授	長期(1年)	2024.4.1 ～ 2025.3.31	日本	本学	中世ルネサンス期のヨーロッパ音楽史	当研究者の専攻領域である中世ルネサンス期のヨーロッパ音楽史について、これまでの研究・教育の蓄積をまとめるかたちで、単著の執筆に従事。楽曲様式の変遷のみならず、政治、宗教、美術、文学など他分野との関わりにも目を配った著作の第一稿を完成。引き続き図版・譜例の作成を進行中で、今年度内の上梓を目指している。
文学部	安村 直己	教授	長期(1年)	2024.4.1 ～ 2025.3.31	日本	①メキシコ国立総合文書館 ②スペイン国立インディアス総合文書館 ③本学	メキシコをめぐるトランスカルチャーの考察	今回の特別研究期間中、メキシコをめぐるトランスカルチャーに関する研究を深めることをえた。メキシコ出張では、高度な文明を擁していたメキシコ中央部と、主として狩猟採集民が暮らしていたメキシコ北部との間でのトランスカルチャーの実態に触れるとともに、それがスペイン本国との相互作用を通じて変容した様相に迫ることをえた。大分県での調査では、太平洋規模でのトランスカルチャー・インタラクションが日本にどう及んでいたのかを確認できた。これらの成果は順次、公刊していく予定である。
文学部	秋山 伸子	教授	長期(1年)	2024.4.1 ～ 2025.3.31	日本	本学	サッシャ・ギトリの戯曲と映画についての研究	サッシャ・ギトリの戯曲と映画作品について全体像を把握すべく、残された文献のみならず、音声資料や映像資料も緻密に検証し、主要な評論等も熟読して、考察を深めることのできた大変有意義な一年間でした。この成果を論考として発表するばかりでなく、授業で学生さんたちに還元できることに大きな喜びを感じています。
経営学部	菅本 栄造	教授	長期(1年)	2024.4.1 ～ 2025.3.31	日本	本学	中堅・中小建設会社の業績管理会計システムの設計と運用に関する研究	本研究では、日本の中堅・中小建設会社で実践されている優れた業績管理会計システムの設計と運用方法に関する理論的および実証的な研究を実施し、大きく2つの研究成果を提出した。まず、土木一式工事会社における日次損益管理システムの効果発生メカニズムを解明し、『青山経営論集』第59巻第1号の論文掲載（2024年7月）および日本会計研究学会第83回大会自由論題報告（2024年8月27日）の形で発表した。次に、建築一式工事会社におけるアメーバ経営システムの設計と運用の実態を解明し、『青山経営論集』第60巻1号（2025年7月）に論文を掲載した。
国際政治経済学部	抱井 尚子	教授	長期(1年)	2024.4.1 ～ 2025.3.31	日本	本学	看護研究における混合研究法教育用ガイドブックの開発とeラーニングの構築	科学研究費の助成を受け、合計42コンテンツからなる包括的な混合研究法eラーニングプログラムを企画・開発し、広く一般に無料公開した。本eラーニングは特に看護学研究者を対象として作成されたものだが、分野を超えて利用可能な内容になっている。プロジェクトに関連する研究発表をMixed Methods International Research Association（2024年7月）、日本混合研究法学会（2024年11月）において行い、Journal of Mixed Methods ResearchやAnnals of Mixed Methods Research（『混合研究法』）などから学術論文（単著・共著を含む）を刊行した。
国際政治経済学部	左近 豊	教授	長期(1年)	2024.9.7 ～ 2025.9.6	日本	本学	旧約聖書「哀歌」の研究（左記に関する注解書の執筆）	国内研究においては、聖書学に関する編著を1冊出版し、そのほか聖書に関する編著書を2冊刊行した。国外研究においてはプリンストン神学大学院旧約研究科客員研究員として哀歌研究の第一人者のDobbs-Allsopp教授との共同研究を行い、同研究科の教授らとの意見交換を通して旧約聖書全体における哀歌の神学的意義について考察を深めることができた。
国際政治経済学部	泉川 泰博	教授	長期(1年)	2024.4.1 ～ 2025.3.31	日本	本学	第二次大戦後東アジアの同盟政治と敵対関係—歴史的・理論的分析	特別研究期間中に日本語での単著の草稿を完成・入稿することができ、現在2025年度秋の出版に向けた作業を進めている。英語の共編著については、出版交渉に必要な寄稿者からの草稿を揃え、出版に向けた出版社との交渉を始めている。この他にも、英文学術誌への掲載がほぼ確定した単著論文を1本執筆するなど、当初の目的を超えた活動を行った。
総合文化政策学部	福岡 伸一	教授	長期(1年)	2024.4.1 ～ 2025.3.31	アメリカ	ロックフェラー大学	生命と文化の動的平衡に関する研究	米国ロックフェラー大学に滞在し、当地の研究者と交流しながら、生命の動的平衡論について研究・考察を深めた。特に、生命現象と時間の関係について、広範囲の文献を参考に考究を深めた。これらの研究の成果は、刊行物（著書）として2025年度内に公表の予定である。
理工学部	LOPEZ, Guillaume F.	教授	長期(1年)	2024.4.1 ～ 2025.3.31	日本	本学	人間情報に基づいたウェルビーイングの実現に関する研究	本研究では、（人間情報に基づいたウェルビーイングの実現）スキルサイエンスにおいて、ナッジ理論に基づいて様々なスポーツにおける短長期フィールドバックが、技の熟練度と継続性モチベーションの向上効果に関して、事例検証を進めた。また、熱中症を始めとした、健康に害する人間環境問題のコンテキストと個人による差を吸収できる生体情報分析モデルを開発した。
コミュニティ人間科学部	植月 美希	准教授	長期(1年)	2024.4.1 ～ 2025.3.31	日本	本学	「デジタル文章表示における、言語処理システムの定量的検討」並びに「もの」と作り手の関係性の検討」	本期間中の研究活動の実績として、以下の2つの論文が採択・公開されている； Ryohei Nakayama, Miki Uetsuki, Kazushi Maruya, & Hiromasa Takemura (2024). Evaluating correlations between reading ability and psychophysical measurements of dynamic visual information processing in Japanese adults. Scientific Reports, 14, 29546. Miki Uetsuki & Kazushi Maruya. (2025). Japanese readers show a crowding reduction even in vertically oriented strings of letters. Vision Research, 231, 108598(6月号掲載予定；2025年4月30日オンラインで公開)
国際マネジメント研究科	中野 勉	教授	長期(1年)	2024.9.15 ～ 2025.9.14	日本	University of San Diego, USA Copenhagen Business School, Denmark 本学 他海外の学会への短期出張	社会のパラダイム・シフトへの新たな企業戦略と組織マネジメントの展開—遂行性と関係性からの実証による理論化の試み	Nakano, Tsutomu, paper presentation, "Valuation of ecosystems: A pragmatist approach to interactional spaces," Session on Digital Disruptions, AI and Ecosystems, ISPIIM Connects Yokohama Conference, Yokohama, Japan, December 03, 2025. Nakano, Tsutomu, paper presentation, "Angel as Socio-Technological Monsters: From Pragmatic Valuation," ISPIIM Annual Conference, Bergen, Norway, June 17, 2025.
会計プロフェッション研究科	小西 範幸	教授			日本	本学	コーポレートガバナンスの統合的研究	研究期間終了後に掲載予定。